

にいがたの いま 現在・未来 あした

センター月報

2008・10月号

CONTENTS

新風

東北電力株式会社 上席執行役員新潟支店長 海輪 誠

調査

地域イベントの開催実態と課題

—地域イベントを活用した地域活性化の在り方—

佐藤公久先生の産業展望

原油価格下落、ポイントは「金融システム」の正常化

日本大学商学部講師 佐藤 公久

探訪

航空・宇宙分野で技術が光る

株式会社 山之内製作所

リサーチ講演会

どうする? どうなる? 日本経済 ～2008年後半の展望～

住信基礎研究所主席研究員 伊藤 洋一

にいがた 旅 再発見 その⑩ 新潟市

明和の「騒動」と「義人」

社会貢献のページ

若月建設 株式会社

10

October
2008

No.420

1 **新風**

東北電力株式会社 上席執行役員新潟支店長 海輪 誠

3 **調査**

地域イベントの開催実態と課題
 —地域イベントを活用した地域活性化の在り方—

15 **佐藤公久先生の産業展望**

原油価格下落、ポイントは「金融システム」の正常化

日本大学商学部講師 佐藤 公久

22 **探訪**

航空・宇宙分野で技術が光る

株式会社 山之内製作所



26 **リサーチ講演会**

どうする? どうなる? 日本経済 ~2008年後半の展望~
 住信基礎研究所主席研究員 伊藤 洋一

34 **にいがた 旅 再発見 その⑩ 新潟市**

明和の「騒動」と「義人」



36 **社会貢献のページ**

若月建設 株式会社



33 What's mean? クレジット・デフォルト・スワップ/ソーシャルビジネス

38 **新潟の食④ ~わっぱ飯~**



40 **グラフで見る県内経済**

46 **グラフで見る国内経済**

52 **業界ホット情報 機械/自動車販売/ホテル・旅館/百貨店・専門店**

54 **こみに** 新・歌謡曲ビジネス/環境家計簿
 フードマイレージの消費者認知率=12.6パーセント



56 **2008年8/10 ~ 9/9の出来事**

57 **10月の予定 (イベント・コンベンション)**



58 **主要経済指標**

62 **2008リサーチ経営者セミナーのご案内**

64 **Information**

加治川の豊かな自然を次世代につなぐ

若月建設 株式会社

代表取締役 若月 学 氏

飯豊連邦を水源に、新発田市郊外を流れ聖籠町で日本海に注ぐ加治川。清流には様々な生き物が生息し、上流域は木々の緑に覆われ、豊かな自然に満ち溢れています。今回はこの加治川を愛し、自然環境の保護や小学生への環境教育に尽力する若月社長にお話を伺いました。



▲素朴な笑顔の下に溢れるバイタリティ、若月学社長。

「粗朶」 この漢字読めますか？

これは「そだ」と読み、森や林から切り出した木の枝を一定の規格に切りそろえた資材のことです。若月建設は、この粗朶を用いて河川や海岸の護岸工事を行っている建設会社です。

粗朶を使った代表的な工法の一つに「粗朶沈床」があります。粗朶沈床は、格子状に組んだ粗朶を堤防、水門の基礎の下や川底に沈める工法で、水の浸食による堤防等の崩壊を防ぐことができるだけでなく、生き物に生活の場を提供します。川に沈めた粗朶沈床には木の枝の隙間が無数にあり、その空間が魚・エビなどの餌場や産卵場所となるからです。粗朶の護岸工法を用いることによって、生き物や自然に配慮した川づくりを行うことができるのです。

ところが、高度成長期には、コンクリートによる護岸工事が主流となり、全国の同業者がほとんど姿を消してしまいます。しかし、1997年に河川法が改正され、それまで「治水」「利水」を目的としていた河川管理に、「環境保全」という観点が加わったことで、自然の素材を用いて護岸工事を行う粗朶工法に再び注目が集まります。今では全国各地から施工依頼が入るほか、台湾やラオスにも粗朶沈床の技術が供与されるなど、明治政府がオランダから学んだ粗朶による河川改修の技術が、日本の技術として世界に広がりつつあります。



▲川床に埋める「粗朶沈床」を組む作業。熟練した職人が二人がかりで行う。

「水辺のシンポジウム」が契機に

若月社長は、大学卒業後静岡のゼネコンに就職し、コンクリートによる河川改修を学びました。しかし、自然に満ち溢れた川岸を人工的なコンクリートで埋めていくことに疑問を持ち、1988年新発田に戻り家業を継ぎます。地元に戻った若月社長は、自宅の前を流れる加治川の清流に目をとめます。「加治川の美しい流れは非常に貴重だ。この素晴らしい環境を守っていかねば」という思いを募らせていました。

そんな時、新発田市制50周年に際して、「新たに新発田から発信できるものはないか」という話が舞い込みます。若月社長は、水辺を通して自然環境の大切さを市民に伝えたいと提案し、賛同してくれた仲間とともに「水辺のシンポジウム」を開催しました。シンポジウムは好評を博し、参加者やメンバーから「素晴らしい仲間との絆を活かして、今後もこの活動を続けていこう」という声が上がります。そして、活動



▲「カッパ体験」を楽しむ子どもたち。
清流の中には鮎や若魚の姿も。

の中心であった若月社長が代表となり、シンポジウムを運営したスタッフの有志と共に「加治川ネット21」を立ち上げました。

当初、ゴミ拾い活動などを行っていましたが、加治川の豊かな環境を子どもたちに伝えたいという思いから、2001年「水辺の大楽校」を開催します。内容は、川遊びを通して水に触れ合い、川に棲む生き物や周辺の草花を観察しながら水辺の環境を学ぶというもの。今年は、子どもたちがライフジャケットを着用し、水に浮かびながら川を下る「カッパ体験」も行いました。最初はおっかなびっくり川に浮かんでいた子どもたちも、30分もすると水中の魚を追いかけるなど、加治川の豊かな自然を満喫していました。

活動の象徴「イバラトミヨ」の発見

2002年8月、「田んぼの生物調査」の活動中に「イバラトミヨ」を発見しました。県によると、絶滅の恐れが最も高い「絶滅危惧Ⅰ類」に分類されている魚で、新発田市でも絶滅したと考えられていました。イバラトミヨは清らかな湧水が流れる地域のみで生息しているために幻の魚ともいわれ、秋田県や山形県では天然記念物に指定されています。

「新発田市内の子どもたちに、絶滅危惧種であるイバラトミヨが生息できる、素晴らしい自然環境があることを理解してもらいたい」そんな思いを抱きつつ、03年から小学校の総合学習で加治川周辺の生き物や自然を教える環境授業を始めたほか、小学校の先生を対象とした自然環境学習会も行っています。さらに、07年には団体設立10周年事業として、新発田市内の小学生が環境学習に取り組んだ成果を発表する「環境学習発表会&活動パネル展」を実施。各校の生徒が、手作りのポスターやスライドを使ってイバラトミヨの保護や加治川の実地保全などを市民に訴えました。パネル展には市内の小学校26校のうち22校が参加しており、若月社長の活動が着実に地元に根付いていることが伺えます。



▲県内で「イバラトミヨ」の生息が確認されているのは、五泉、中条、新発田の3地域のみ。体長は6cmほど。

「地域の宝」を次世代に

「加治川の豊かな自然を21世紀に残したい」という思いから名付けられた「加治川ネット21」。その活動は、02年に新潟県、05年には環境省から表彰を受けるなど、団体名が全国区になると同時に、加治川の素晴らしい環境も全国で認められるようになってきました。しかし、「加治川流域には全国から評価されるような豊かな自然が残っている、ということを知らない新発田市民がまだまだ多い」と若月社長は嘆きます。地元に残る素晴らしい加治川の恵みをより多くの人たちに伝え、次世代につなぐ、という重要な使命を担う若月社長。「地域の宝」の「守り人」となり、今後も加治川に残る豊かな自然環境を見守っていきます。

(栗井)

本業と加治川ネット21の活動に加えて、地元小学校のPTA会長、新発田青少年健全育成市民会議の常任理事なども努め、自宅にいる時間はほとんどないとか…。「私の苦勞は地域の人々の笑顔で報われます」と語る若月社長。バイタリティ溢れる若月社長に脱帽です。

問合せ先：NPO法人「加治川ネット21」 TEL 0254-31-4111
URL <http://www.inet-shibata.or.jp/~kjn21/> E-mail kjn21@ml.shibata.ne.jp

このコーナーでは、企業本来の事業活動だけでなく、地域社会の向上・発展のために地道に力を注いでいる企業、団体を紹介します。ジャンルは、まちづくり、社会教育、文化の振興、環境改善など多岐にわたります。